

東アジアの変動（倭寇）



* 軸物類254「倭寇図巻」（複製）

解説

倭寇は、14～16世紀に朝鮮半島や中国大陸をおそった海賊に対する朝鮮・中国側の呼び名です。彼らは、民族・国籍をこえて連合した人々の集団であり、その活動は中世東アジア海域の一大国際問題でした。

倭寇のピークは大きく分けて2回あります。1回目は14世紀後半、朝鮮半島・中国沿岸部を襲撃したもので、対馬・壱岐・肥前松浦地方などを主な根拠地としていました（前期倭寇）。2回目は16世紀半ばから後半にかけて、中国沿海部がその活動の主たる舞台となり、日本人の割合は多くても2割程度だったと考えられています（後期倭寇）。

「倭寇図巻」は、16世紀半ば、中国を襲った倭寇と明軍との戦いを描いた絵巻です。鉄砲を持つ倭寇が描かれていることから、これまでも本絵巻は、後期倭寇を描いたものと推定されてきました。2010（平成22）年東京大学史料編纂所が赤外線撮影を試みた結果、「弘治四年」（1558年）という文字が発見され、そのことが裏付けられました。

また、近年「抗倭図巻」という「倭寇図巻」とよく似た絵巻が中国国家博物館に所蔵されていることがわかり、両者による比較研究も進んでいます。

* 「倭寇図巻」の原本（絹本着色。縦32cm、横523cm）は、東京大学史料編纂所の所蔵です。当館所蔵のものは、1930年につくられたモノクロ写真による複製です。

* 「倭寇図巻」の全貌は、東京大学史料編纂所のウェブサイトで確認することができます。

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/conference-seminar/science/ez01.html>